

# 八小5年生 土石流跡地で防災学習

## 山を治して災害防止 災害は他人ごとではない

総合的な  
学習の時間

# 現場で災害の怖さを学ぶ

12月18日（水）、八本松小学校（校長 土肥美由紀）は、5年生の総合的な学習の時間、一昨年この地域で起こった7・06西日本豪雨災害の跡地（八本松西）を訪れ、現地での防災学習を行った。



① 最大の土石流が起こった曾場ヶ城の本流（三反田川）バイパス工事現場で止まり難を逃れた



② 豪雨でとてつもない大きな石(右)が水と土砂や木と一緒に流れしてきた

この日参加した5年生（141人）は、徒歩で小学校から西に約1.5 km離れた土石流跡地に集合。現地は災害のつめ跡は残っているが応急復旧がされ立ち入ることができるところ。説明に当たった自

治協の土久岡、牧野景山、近藤氏らは、「曾場ヶ城山の山腹で複数の土石流が発生。巨石や流木を巻き込んだ土石流が治山ダムも越え国道から溝迫交差点付近や宗吉団地内に大きな被害をもたらした。

このため、この地域に再び土石流が起こらないよう、10年計画で国による治山



③ 最後の大きなダムも乗り越えて土石流が流れてきた

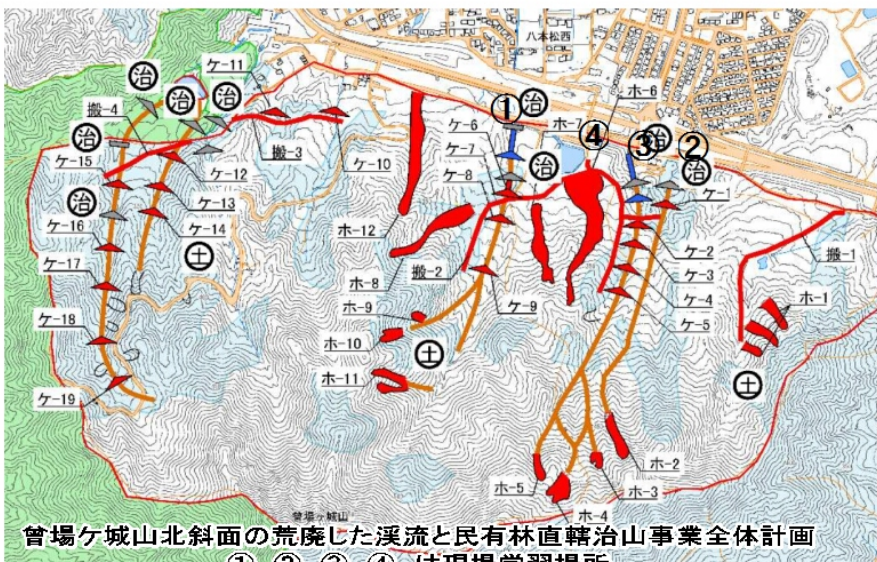


④ ダムで流れを緩やかに植栽で崩れにくく山を安定させ山の方で災害を防ぐ工事がされています



被害を少なくするには早く避難することが大切です

事業が開始されている。しかし、近年、気候変動等で災害の頻度が高まってきている。みんな災害情報に注意し、早めの避難が大切です」と説明。児童からは、「土石流はなぜ起こるか。ダムで防げないのか」等と多くの質問が出された。現地学習後の児童の感想文では、「実際に見怖ろしかった。自分の近くは安心だと思っていた。他人ごとでない近くの裏山を確認する」等、災害の理解が深まり防災意識が高まっていた。



曾場ヶ城山北斜面の荒廃した溪流と民有林直轄治山事業全体計画 ① ② ③ ④ は現場学習場所

# 子どもたちの目線で危険な場所探し 八本松南地域 地域安全マップづくり

自治協青少年育成部会

自治協青少年育成部会(会長 中森幸恵)は、12月8日(日)子ども達による「地域安全マップづくり」を開催した。



一人ずつ危険な場所を発表

この催しは、子ども達の危険回避能力を高めるため、毎年場所をかえて実施されているもの。今年八本松南(2丁目・4丁目)地域を対象に、児童(31名)や保護者、地域の方八本松小学校教職員、おやじの会、自治協



まち歩き状況(団地の周辺)

スタッフ約100名が八本松南に集まり危険な場所のマップ作りが行われた。最初に、マップに

表示する「入りやすく見えにくい危険な場所」とはどんなところか事前学習した後、実際に町歩きで危険な場所の調査を作成した。

## 子ども達が探した危険な場所

危険場所の内容	箇所数
樹木、塀、建物との間等の死角から見えにくい所	12
表示のある危険な場所、危険表示がなく防護施設のない場所	8
交通量が多いのにガードレール等の対策のない場所	6
人通りが少なく助けが呼べない場所	6
その他	4
合計	36

作成したマップの発表

表会は、児童一人ずつ危険な場所を説明するもので低学年から高学年まですばらしい発表が見られた。



素晴らしい子ども達の作品

「創作する力」 作品作りを通じ、子ども達が自らの発想をもとに

特に樹木等による見えにくい所、防護施設のない危険な箇所、人通りが少なく助けが呼べない場所が団地周辺部に見られる一方、中心部は交通量が多いためガードレールのない場所があると伝えていた。現在、このマップは八本松小学校に掲載され、参加できなかった児童等への注意が呼びかけられている。

今回は、「グリーンディングカード」作りで、折紙や切り絵の要素を取り入れた楽しい創作。集まった30人の子ども達(保護者の方を含め約40名)は、藤田先生

生の説明を聞き、作品作りに没頭。今回初めての体験にもかかわらず4種類ものグリーンディングカードを短時間で作り上げた。

なかでも、更に斬新な手法を考案したり、イメージを拡げたイラストを描いたりするなど、子ども達の個性あふれる作品が続出。指導された藤田先生も、笑顔で「(子ども達の発想は)すごいですね」の連続。



アイデアに先生絶賛



作品作りに没頭

12月21日(土) 青少年育成部会(部会長 中森幸恵)は、七つ池南ハイツの藤田真知子先生を講師にお迎えし、八本松小学校で絵手紙教室を行った。

## 絵手紙教室

# 心ももったグリーンディングカードを作る すばらしい子ども達の創作力

青少年育成部会

が見られた。今後もうこうした力を大切に伸ばしていただきたい。